

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	株式会社木村コーポレーション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット1		
所在地	杵築市大字溝井1609		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成25年2月15日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、グループホームの理念である「入居者様とご家族様が安心して生活できるような介護」を実践するために各種研修会に参加したり、施設内で勉強会を実施し質の向上に努めています。専門的知識と認識を持ち入居者様と寄り添えることのできる介護を実践しています。また、他施設の盆踊りに参加させて頂き、自施設での納涼祭や勉強会においては、他施設からの入居者様や職員をお招きし、地域交流も盛んに行っています。

・医療機関との連携を図り、適切な医療が受けられるようにしている。特にケアスタッフの人材育成を図り、重度化や終末ケアが受けられるように研修を重ね、4人の見守りケアが提供されている。
 ・利用者一人ひとりの思いや暮らし方について希望を聞き、現状に即した介護計画書を作成し、実践に繋げている。
 ・2か月に1度の運営推進会議には、家族も多く参加しており、積極的な意見が出され、運営に反映している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1/9	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初音の里全体の理念に沿ってグループホーム独自の理念を掲げている。移動の職員、新人職員には説明を行い統一した意識付けを図っている。	法人全体の理念と当事業所の理念を目に触れやすい場所に掲示し、日々ミーティング時に振り返っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所周辺の美化作業への参加。夏祭りを開催し、地域の方の協力を得ながら行っている。	定期的に事業所周辺の美化活動を法人全体で行っている。また地域の運動会や杵築城まつり、おせつたいに参加したり、恒例の施設夏祭りには100人参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っている。事業所の祭りへの参加、見学を呼び掛け認知症の方へ接する機会を持っていただいている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。市の担当者、地域の代表、家族、入居者の出席により現状報告を行い、意見、要望を頂き検討改善している。議事録は配布している。	2か月に一度、運営推進会議が開かれ、利用者や市の職員・地域の代表・家族会などの参加がある。会議で得た情報を元に検討し、質の向上に繋げている。また詳細に記録し、議事録を配布している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	個別のケースや困難事例について、相談、助言を受けている。	困難事例については地域包括支援センターに相談し、意見をもらっている。また疑問点は市の担当者とその都度聞いて対処している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、申し送りなどを通して、共通認識を図り、安全面を配慮して自由に過ごせるよう支援に取り組んでいる。	リスク委員会が主体となって、拘束をしないケアに努めている。特に安全面について、配慮しながら、淋しくないようにベッドを居間に移動するなどの工夫をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送りなどを通して、虐待につながるようなことがないか検証し、些細なことでもみのがないよう職員間で注意している。	/	/

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員へ説明している。ご家族の相談に対応することもある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもって説明している。ご家族の疑問、不安には丁寧に答えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月の請求書に手紙を同封したり、訪問時に意見を頂いたりしている。2か月に1度家族会を開き意見を頂いている。	家族会は運営推進会議の日と決め、活発な意見が出され、その意見を基に運営に反映している。また、毎月、請求書の中に担当と責任者より現状報告の便りが同封されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、社長、施設長、事務長出席の事業運営に関する全体会議を開き、具体的に事例をあげて話し合いの場を設けている。	毎月、全体会議(法人の代表、施設長、事務長、事業所の管理者、職員)が開催されている。更に意見や提案は会議の中で検討され、業務の改善につながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により資格給が付くようになっているが、やりがいに結びつく水準にはなっていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は職員の経験年数などに応じて研修に参加してもらっている。施設内研修は、教育委員会が計画立案し実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内の他施設と相互訪問したり、勉強会への参加などを通して意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	うまく意思表示できない方もいますが、日々の状態観察を行い、傾聴の姿勢、安心を与える姿勢で対応してる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にこれまでの生活の様子や思いを聞き、支援に生かすようにしている。必要時は電話連絡を実施し情報交換をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族より情報、要望を頂き支援の方向を決めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の生活リズムを大切に、簡単な作業や会話の時間を作っている。教えられることも多く相談することもある		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し対等の立場で、本人を支えていく関係を作っている。行事と一緒に参加し良い関係を保てるように支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加。家族や親類などの綿花を大事にし、本人との関係が途切れないように努めている。	お城祭りや地域の弘法様参り、運動会などなじみ深い場所や季節ごとのお花見などに出掛けている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の思いを大切に、気の合う関係が継続するように努め、孤立しないように観察、声掛けを行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族など、必要があれば情報を提供している。亡くなられた方には夏祭りに合わせて営まれる供養祭へ出席の案内を出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活状況から本人の言葉や思いを本人の言葉で記録し、気づいたことは職員間で情報交換し検討している。	思いや意向は、家族に生活歴を聞き、日頃のしぐさやつぶやきなど詳細にアセスメントシートに記載し、職員のケアカンファレンスで検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時記録作成時、ご家族より聞き取り実施し、本人との会話の中から情報を集め、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から入居者の訴えを大切にし、些細な動きや会話から現状把握に努め、ケース記録、介護記録、申し送り簿に記載している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き担当者会議で検討し、現状に即した介護計画を作成し、1か月毎にチェックし3か月毎に評価している。	利用者や家族、職員の意見を基に実行可能な介護計画書を作成している。全職員が情報を共有し、実践、モニタリングを行い、3か月に一度、評価・見直しの計画書を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者各々にファイルがあり、日々の状況を記録し情報の共有を行っている。月1回のミーティング、随時カンファレンスを開催し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズの状況に応じ可能な限り臨機応変に対応している。受診の送迎支援、入院時の選択支援な等行っている。		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、区長さんと意見交換を行っている。施設周辺の地域の方、小学校とお互いの行事を通して交流を働きかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医による定期的な往診が行われている。体調不良時には、家族、主治医との連絡調整により適切に対応している。	施設長が看護職であり、常に健康状態の把握ができ、かかりつけ医との連携がとれている。また、利用者一人ひとりの主治医が2週間に一度、訪問診療をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と常時連携の取れる状態にある。入居者の状態を報告、相談し体調管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を提供している。家族、医師、看護師と回復状況について情報交換を行い退院支援へ結び付けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人家族と話し合いを行い、重度化、終末期へに向けた方針を確認しながらケアに取り組んでいる。状態の変化、重度化時には再度確認している。	利用開始時に家族と重度化や看取りについての十分な話し合いがなされている。終末ケアの人材育成が行われている。事業所では、4人看取りが行われた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処方法は、日常業務の中で確認しあい、AED、救命救急法等を消防署の協力を得て学習、訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全衛生委員会が中心となり、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を入居者と一緒に行っている。地域の協力体制については運営推進会議を通して協力を呼び掛けている。	防災訓練は安全衛生委員会が主体となっており、年に2回、消防署協力の下で行っている。推進会議で地域の支援協力を要請している。	

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には、名字で声かけし失礼のない様、敬語を使い支援を行っている。愛称で呼ぶ場合は、本人、ご家族に了解を得ている。	一人ひとりの呼び名は、利用開始時に家族や本人に聞き、プライドを傷つけない呼び名としている。またトイレ誘導や入浴時は無理強いをせず、誇りを大切にしたケアに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表せる方には声かけし話を聞いている。希望を表せない方には、非言語コミュニケーションの活用や寄り添いケアに努め、意思表示のサインに気付くよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調を把握し、一人一人に声をかけ、会話し希望を聞き、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室担当を配置し、その人らしい身だしなみができるよ支援している。朝の整髪、髭剃りを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を見ら目から楽しめるように、盛り付けなど工夫している。食器洗いなど出来ることは職員と一緒にやっている。検食が提供され職員は、食材や味付けの確認ができる。	利用者に食事の好みを聞き、献立に活かしている。また、盛り付けやおやつ作りなどを一緒にしている。検食は職員が交代で行い、意見を出し合っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎食、毎飲後記録。月1回体重測定を行っている。摂取量の少ない方には、好みを聞き、おにぎりにする、ゼリー状にするなど工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、義歯洗浄の声かけを行い、出来る方には自分でしてもらい見守り支援を行っている。		

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により一人一人の排泄パターンの把握に努めている。随時、定時の声かけ誘導を行、失敗しないよう配慮している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。おむつは使わず、布パンツやリハビリパンツを使い、快適な排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、朝食後出来るだけ便器に座ってもらいゆっくり時間をかけている。薬の服用は状況により医師の指示の下調整している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を計画しているが、季節や体調により変更している。希望や汚染があれば入浴できる。1日に3名とゆっくり入れるようになっている。	入浴嫌いの利用者には、タイミングや着替えの誘導などで無理強いせず、楽しく入浴できるよう雰囲気づくりをしている。毎日入浴できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態によって午睡をとっている。生活リズムを大切に、夜眠れない方には飲み物を用意したり会話したり寄り添うようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに閉じている情報をいつでも確認できる。変更時は、申し送りや医師連絡帳で確認し、状態の変化は記録し報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーを変える、テーブルを拭く、コップを洗う等、個々の能力に応じた支援を行っている。季節の行事参加を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、花見、おせたい、運動会見学、他施設との交流等行っている。外庭への散歩など個別に行い出来るだけ外の空気に触れるよう支援している。	本人の希望を聞き、できるだけ戸外に出かけられる支援をしている。重度化された方などは、玄関先にテーブルを置き、外気に触れるようにしている。暖かい日は法人内のお散歩などで気分転換を図っている。	

事業者名:グループホーム初音の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より小口現金を預かり事務所で管理している。外出した際は、自分で支払いができる方にはお金を渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時に、必要性を考慮し、電話でのやり取りをしている。贈り物が届いた時は、本人が直接電話で相手と話ができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面づくりや行事の写真などを飾り、施設内においても季節の流れを感じられるよう工夫している。	共用空間は利用者が落ち着いてくつろげるように「手作りの壁画」や「素敵な笑顔の写真」などが掲げられている。また、季節感を感じる花などが飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を区別し、好きな場所でくつろげるようソファを配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する上で、必要なものを持ち込んでもらい使用している。本人や家族の写真を飾りつけている。	一人ひとりの好みの作品や使い慣れた寝具や小物、写真を用い、落ち着いた居室づくりがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人に合わせてトイレ、居室に目印をつけ混乱なく生活できるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471000234		
法人名	木村コーポレーション		
事業所名	グループホーム初音の里ユニット2		
所在地	杵築市大字溝井1609		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成25年2月15日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、グループホームの理念である「入居者様とご家族様が安心して生活できるような介護」を実現するために各種研修会に参加したり、施設内で勉強会を実施し質の向上に努めています。専門的知識と認識を持ち入居者様と寄り添えることのできる介護を実践しています。また、他施設の盆踊りに参加させて頂き、自施設での納涼祭や勉強会においては、他施設からの入居者様や職員をお招きし、地域交流も盛んに行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット1と同様

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務日誌及びホールに私達の理念を掲示し意識高揚に繋がるよう常に念頭に置き日々実施、日々努力をしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自施設の盆踊りに地域の人の参加を促したりおせたいへの参加や納涼祭の参加など積極的に地域との交流をしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自施設に講師を招き認知症の勉強会を行ったり他施設研修に行ったりして知識の向上に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方の意見を十分聞き改善すべき所は対策を講じたりご家族の方の要望に添えるよう努力している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方々に情報を伝えたり、また逆に意見や情報をもらったりし協力関係の構築に努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策が拘束になっていないかを見直してから実施することが習慣づくよう促している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを行い法律の内容をよく理解出来るよう説明し虐待のない事業所として職員が意識して行動出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を持ち職員に説明している。担当の利用者の家族の相談に応じることがある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、事前に分かりやすくまとめた資料(重要事項説明書・契約書)に目を通してもらい説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議の時やご家族様面会時などコミュニケーションを密に取って意見や要望などを聞くように心掛けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会を開催し各部署ごとの意見や個人の意見などを社長、施設長、事務長などが把握出来るようにしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得に便宜を図ってくれており職員も向上心を持って取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修を始めとして色々な勉強会や研修に参加出来るよう管理者が積極的に勧めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の新聞を読んだり自施設の勉強会に同業者を誘ったり他施設の勉強会に参加するなど交流の中で職員のレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の希望や困っている事など色々お聞きし、またご家族様の方からも情報収集しそれを今後の対応に生かしていることと努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との会話の中より細かな情報収集を行い不安や要望などをくみ取って信頼関係を早く作れるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族が何を望んでいるかを把握し、それに沿った計画を立てるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室に籠る事を少なくする為に多数の人が出来るようなレクを職員と一緒にやってもらったりしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には利用者様の様子を伝え、またこちらからも情報を聞くことでご家族様の関心を高めるよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節行事で馴染みの人や場所へ行ったり、友人、知人の面会も歓迎している。ご本人が友人、知人の話をする時は傾聴を心掛けている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで利用者様同士の交流を促したり言い争いが起きないように職員が仲介をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から声かけやコミュニケーションを心掛け個別ケアに努めている。困難な場合にはご家族の方の情報を参考にしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様とコミュニケーションをとりレクなども通じて情報を集めている。可能な方はご家族からもお話を伺う。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の行動や言動から現状の把握をするよう意識した声かけ、見守りを実践し主治医からの情報提供も受けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、モニタリング、カンファレンスを行い現状に合った計画書を作成している。本人、ご家族、関係者の意見も聞いている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を職員が活用し週1回のケアカンファレンスで、職員の情報共有をする事で早めの対応を心掛けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	衣類や生活用品等、状況に応じてご家族様と相談しながら用意している。また散歩が好きな入居者様には天気の良い日は散歩等をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に家族会を行い民生委員や区長、ご家族の方達との意見交換や現状報告をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの入居者様に担当医師がおり週ごとに往診を受けている。必要時は上記以外の病院も利用している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気になる点や気付いた点はすぐ看護職に報告し確認している。必要時には担当医に報告している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時等には病院に対し本人の行動の特徴等を伝えている。入退院時の送迎が困難な場合はご家族様の代わりに職員が行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族様の意思を尊重し担当医、上司と相談し全職員で支援を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をミーティングで話し合ったり救急蘇生法の実技講習への参加や施設内外での研修に参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、入居者様、職員が避難訓練を実施している。運営推進会議を通して地域に協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人に対し親しみやすい話し方をする様に心掛けている。また入居者様のプライドを傷つけないよう注意している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を聞き出来るだけ支援を行い無理な時は話を聞いたり気分転換をするようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を踏まえ睡眠がとれていない時は休んで頂いている。消灯時間にこだわらず好きなテレビを見て過ごして頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時などは衣類の入れ替えを利用者様と一緒にし、また不足の時は買い物時に利用者様に選んで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、下膳、食器洗い等は利用者様と一緒にしている。また職員も利用者様と同じ食事を一緒に食べ味付け等チェックしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記録しており管理栄養士の元で利用者様に合わせたメニューとなっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い利用者様によって職員が見守ったり介助を行っている。義歯は毎週月曜日に洗浄液に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る方に対しては誘導している。声かけで排泄の有無を確認して誘導し排泄チェック表を活用している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による食材の工夫、水分補給、運動、入浴時の腹部マッサージ等で便秘対策をしている。排泄状況は排泄チェック表で確認をとる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者様の希望を聞き実施している。肌の状態次第で入浴の必要性を説明して毎日入浴してもらうこともある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気が良い日は中庭の散歩をし、また壁面画作成など入居者様が出来ることをやって頂く。毎週日曜日にはシーツ交換を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬箱に1人1人の薬を一週間分セットし、また別の箱に毎食度に薬をセットして服薬を正確に行っている。また薬が変更された際には職員全員に知らされその後の状態変化を記録し次回の往診の際にDrに知らせている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当者会議を行った際、日常の中でその人に出来ることは何か話し合っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月レク活動計画を立て戸外に出かけられるよう支援している。最近では、当施設で盆踊りを開催し入居者様全員参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より電話があった際には出来るだけ電話口に出て頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとにテーマを決め入居者様と協力し壁面画作成をし完成したものをホール中央に貼り季節の変化を感じて頂いている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の位置はほぼ固定されているが話が合う入居者様同士を近くに配置したりテレビが好きな方はテレビが良く見える位置に配置を行ったりして工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が昔から使い慣れたものを居室に置いている。また外出時の写真やご家族様の写真を飾ったりしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当者会議の際に、その人に何が出来るか職員で話し合っている。		